


かん せん  
 甘 泉

## プロから家庭菜園まで、作り易く美味しいスイカ！

### 特 性

- ① 低温期での伸長性が強く、葉はやや大きく、蔓は太い方で子蔓の発生も一斉によく出ます。低温寡日照期の雌花の発現は良好で花粉の力も強く、大型ハウス栽培での着果も容易で、安定した収穫が望め、耐病性も強い品種です。
- ② 果実は濃緑地に鮮明で太い16~18の条斑を現し腰高で見るからに力強いボリューム観があります。輸送性は強く、早生系でありながら5月収穫で5kg、6月以降の収穫では、6~7kg平均の大玉種で、変形果は極めて少なく、秀品率の高い特長をもっています。
- ③ 果肉は鮮紅色で、繊維が非常に細く、肉質ち密で強いシャリ感があります。糖度は12度以上になり、肉質の安定期間は長く、店持ちもよく、食味は最高です。
- ④ 変形・空洞が極めて少なく、果肉のシマリ・色あいが最高で、カット売りに最適です。



### 栽培のポイント!

#### ●摘芯と蔓整理

一斉着果の各主蔓に均整が必要であるため、本葉6~7枚の頃に摘芯をして、4本の主蔓を作ります。主蔓と主蔓との間隔はいつも25~30cmの開きを与えます。

#### ●製枝と芽かき

子蔓がトンネルの裾にとどく頃、蔓引きを行い、引いた蔓先がトンネルの中央部で1線になるように揃えておきます。蔓引きの時に第1回の芽(側枝)かきを行います。第2回の芽かきは、第1着果を予定した雌花の開花2~3日前に行い、着果後は芽かきはしません。

#### ●交配

蔓の長さ1.5m位(着果節位15~20節)の頃から交配を始め、4本の主蔓に雌花が揃って咲く頃まで交配を続けます。交配は、午前中の出来るだけ早く(午前8~9時)に行います。低温期には開花しないことがあるので、雄花を開花前日の夕方に摘み、小箱に入れ適温・適湿を保ち、翌日使用するとよろしい。その雄花で、雌花にたっぷり授粉します。交配期間中は夜間の保温につとめ、花粉の発生を促進し、活力の減退を防ぎます。

#### ●追肥

第1回の追肥は、交配終了後に、畝の肩先に施します。施肥量は着果状況や草勢を見て加減します。(N5~6kg、P10kg、K5~6kg)

第2回の追肥(玉肥)は、果実がソフトボール大(直径7cm以上)位になれば、N4~5kg、K5~6kgを施します。収穫間近の肥料切れは果実の品質と収量の低下を招きますので液肥での灌注や葉面散布などで最後まで肥効を保つようして下さい。

#### ●摘果

元成りは変形果は、草勢を見て、なるべく早く、2連続着果のものは1果に、成り過ぎのものは、3本仕立て1果、もしくは、4本仕立て2果になるように摘果します。第1着果の節位は18節(第3番花)以上が適当です。雌花の子房の短太なものや両性花は変形果になりやすく果肉に黄帯も出やすいので摘除します。

#### ●着果標識と玉直し

果実が鶏卵大のとき、色別の標識を立てて着果の日付とし、収穫時の適熟判断に備えます。果実が直径10cm位になるまでに果実の果梗部を上部に正座させ、収穫1週間前には横にねかせて果底部に色をつけ商品価値を高めます。(西瓜シートは着果後20日位の時に敷く。)

#### ●収穫

ハウス・大型トンネル栽培の前進栽培に適しますので、収穫は、以下の時期が適当です。5月収穫で開花後48~52日位、6月収穫で開花後42~45日位、7月収穫で開花後、33~37日位を目安に試し切りにて確認してください。

下記標準栽培表を参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。

	12	1	2	3	4	5	6	7	8
ハウス半促成	●	.....	×						
大型トンネル		●	.....	×					
中型トンネル			●	.....	×				
露地				●	.....	×			

● 播種    ..... 育苗    × 定植    — 生育    □ 収穫